



2019年6月

株主の皆様へ

当社の取締役を代表し、2019年6月27日に開催される2019年度定時株主総会についてご案内申し上げます。なお、今年度の定時株主総会は日本が初めて議長国を務めるG20サミットが同時期に大阪で開催されることを受け、例外的に大阪以外での開催となります。本変更によりご不便をおかけいたします皆様に、心よりお詫び申し上げます。

本株主総会では、シャイアー社買収後の統合の進捗に加え、高い競争力を持ち、当社の経営の基本精神に基づき患者さんを中心に考える、日本に本社を置く、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーとなるための武田薬品の変革について、最新の情報を共有させていただきます。

2019年1月8日以降、新生タケダとして、一日でも早く効率的に業務を行えるよう、統合に邁進してまいりました。喜ばしいことに、これまで統合は極めて順調に進捗しております。統合第1日目から、旧シャイアー社の世界中の事業拠点がすべてタケダとなり、全従業員が当社の電子メールでコミュニケーションを行えるようにいたしました。事業に支障をきたすことなく統合第1日目を無事に終えることができました。

当社の事業の順調な進捗は、5月14日に公表しました2018年度の良好な業績¹、2019年度の業績予想、および今後の中期展望にも表れております。私たちは、主要ビジネスエリアの主な製品群、生産性の高い革新的な研究開発エンジン、さらにトップレベルの利益率と迅速な債務水準改善を可能とする強固な財務体質がもたらす今後の更なる成長に自信を持っております。

タケダイズム(誠実・正直・公正・不屈)と、「患者さんを中心に」、「社会との信頼関係の構築」、「レピュテーションの向上」、「事業の発展」という優先順位を合わせた当社のバリュー(価値観)は、従業員に愛され、根付いています。このバリュー(価値観)に基づいた文化をより浸透させるべく、具体的な事例をもとにした数々の研修を世界規模で実施しています。また、統合に関する第1回目の従業員調査では、従業員の79%から「武田薬品の将来に期待している」という回答が得られました。ここで特筆すべきは、その時点では多くの従業員の今後のポジションが確定していなかったにもかかわらず、ベンチマークと比較しても高いスコアが示されたことです。複雑かつ慎重を要する管理職の選定プロセスも、スピードを維持しながら公平性と透明性を持って進めております。これは、従業員の期待に応えるためだけでなく、当社のバリュー(価値観)とも合致するものであるため、極めて重要であると考えております。

当社が長きにわたり育んできたアイデンティティを保持しつつ、厳しい環境の中でもより競争力の高い企業となるように統合がなされていくことを確信しています。

イノベーションのペースはこれまでよりも速く、世界各国の医療制度は大きな財政的課題に直面しています。その結果、保険者は保険償還対象となる医薬品をより厳格に選定し、後発品やバイオシミラーの推進、薬価引下げを積極的に行っています。

そのような環境下にあっても、新生タケダは、今や世界の大手製薬企業と十分に渡り合えるポジションにいます。

現在上市されている当社製品は、主に、患者さんの命を救える、または生活の質を改善できる、他社製品とは高度に差別化できる医薬品で構成されており、私たちはこうした医薬品を世界中のより多くの患者さんにお届けすることを目指しております。5つの主要ビジネスエリア(消化器系疾患、希少疾患、血漿分画製剤、オンコロジー(がん)、ニューロサイエンス(神経精神疾患))の14の革新的医薬品が当社の今後の成長を牽引していきます。これらの革新的治療に当社の成長を分散させることで、不安定な市場への耐性もより強くなります。さらに当社の事業は、現在のみならず今後も続く日本でのリーディングカンパニーとしての地位、米国での強固なプレゼンス、および中国を含むその他多くの国々での高い競争力により、真にグローバルな規模に拡大しています。現在では80カ国に医薬品を効果的に上市できる体制を整えています。

¹ 2019年5月14日公表 当社本決算情報をご参照ください。
(<https://www.takeda.com/jp/investors/reports/quarterly-announcements/quarterly-announcements-2018/>)



当社は、4つの重点疾患領域（オンコロジー、消化器系疾患、希少疾患、ニューロサイエンス）において、患者さんのために、革新性の高い医薬品を創出することを目指す研究開発型企業です。また、これらの疾患領域にて、革新的なパートナー（バイオテクノロジー企業、スタートアップ企業、大学など）とのコラボレーションを促進しており、現在では約200件のパートナーシップが進行中です。そして、4つの重点疾患領域、トランスレーショナル医療、およびデータサイエンスにおける専門性をはじめとした主要なスキルセットが当社の研究開発エンジンをより強固なものにしています。これらの体制により、大変魅力的なパイプラインが生まれ出され、そのなかには、細胞・遺伝子治療ポートフォリオにある医薬品のように、将来患者さんの命を救える可能性を秘めた医薬品も含まれております。当社の研究開発組織は、社内の学術的な強みとパートナーネットワークによるイノベーションを組み合わせることで、最大限の成果を創出できるように最適化されています。このユニークなモデルにより、当社の生産性は向上し、効率性もこれから更に改善されていきます。当社の研究開発は、他の世界トップ10製薬企業と比較しても極めて筋肉質かつ機動的な体制であるため、新たな革新的医薬品とワクチンを患者さんに届け、かつ投資から得られるリターンを大幅に向上させることができます。私たちは業界有数の高い生産性を有する研究開発型製薬企業を目指しています。今年中に開催されるR&D Dayでは、さらに詳しい情報を共有させていただく予定です。

オンコロジー、消化器系疾患、希少疾患、ニューロサイエンスという重点疾患領域以外にも、革新的な血漿分画製剤によって幅広い希少疾患に対応すべく、努力を重ねています。また大きな公衆衛生ニーズに貢献できる Dengue 熱ワクチンも、早い段階での申請を目指しています。血漿分画製剤ビジネスユニットおよびワクチンビジネスユニットでは、患者さんのニーズに応えるべく、これらの特定の領域に的を絞った形で長期的な視野で取り組んでいきます。

統合による大幅なコスト相乗効果と継続的なコスト削減により、当社は業界トップクラスの利益率の達成を見込んでおります。これと今後成長が見込まれるポートフォリオを合わせ、当社のバランスシートの早急な負債圧縮、成長ドライバーへの継続的な投資、さらには重要な株主還元としての年間180円の配当方針の維持も可能となります。当社は、力強いキャッシュフローや5月初旬に発表²をしたドライアイの兆候・症状の治療薬「Xiidra®」(lifitegrast点眼剤) および手術用パッチ剤「TachoSil®」をはじめとしたノンコア（非中核）資産売却も合わせ、3～5年以内にレバレッジ（純有利子負債／調整後EBITDA倍率）を低下させるべく全力で取り組んでいます。レバレッジ低下が実現すれば、当社の財務体質は極めて堅牢となり、競争力が増していくことで当社にもたらされる機会もさらに増えていきます。

タケダ・エグゼクティブチーム（TET）は、多様性に溢れた（7名の女性を含み、国籍は11に及ぶ）、極めて経験豊富な20名のリーダーで構成されており、当社を次のステージへと導くにふさわしい体制が整っています。コーポレート・ガバナンスは世界基準で見ても極めて信頼性が高く、取締役会では15名の取締役のうち11名が社外取締役であり、監査等委員会、指名委員会、報酬委員会も設置されています。各委員会は、社外取締役が大半を占める形をとり、委員長も全て社外取締役が務めており、取締役会の議長も社外取締役です。

今は、当社にとっても、医療従事者にとっても、当社の医薬品をお使いいただいている患者さんにとっても、また当社の従業員にとっても、さらには株主の皆様にとっても、期待に胸が高鳴るときであると信じています。

皆様も私たちと同様に当社の今後に期待を抱いていただけることを願い、6月27日にお会いできることを楽しみにしております。

武田薬品工業株式会社
代表取締役社長兼CEO

クリストフ・ウェバー

² 2019年5月7日公表プレスリリース「XiidraのNovartis社への譲渡およびTachoSilのEthicon社への譲渡について」をご参照ください。
(<https://www.takeda.com/jp/newsroom/newsreleases/2019/20190509-8061/>)